

2020年度 第15期アレルギー大学
(インターネット講座)

特別講座

認定NPO法人 アレルギー支援ネットワーク

「食物アレルギー対応 最近の話題」

(申込番号:W15000a)

講師 宇理須 厚雄 氏 うりすクリニック 名誉院長

食物アレルギー患者さんの食の安心・安全確保や食のQOL向上には医療機関、園・学校、患者会、食品企業、レストラン、行政機関などの支援と連携がなければ望めない。本講演では、下記のテーマを中心に解説する。

- 1、加工食品のアレルゲン表示；食品表示法（2015年施工）の移行措置期間2020年3月に終了した。変更点を確認する。
- 2、2020年1月に名古屋市の「保育所等の給食における食物アレルギー児への対応指針」が改訂された。
- 3、「ニッポンハム 食の未来財団」が支援する患者会の食物アレルギー患者環境改善活動の紹介。

「アレルギー初耳学 ～ あれもこれもアレルゲン? ～」

(申込番号:W15000c)

講師 北村 勝誠 氏 あいち小児保健医療総合センター アレルギー科医長

身の回りの「あなどれない、隠れたアレルゲン」とは・・・
食物アレルギーでは、最近ピーナッツ以外のナッツ類（クルミ、カシューナッツ）アレルギーが増加しています。未摂取で初めて食べてアナフィラキシー、というのがお決まりのパターンです。その他の食品としては、魚卵（おもにイクラ）アレルギーも近年増加しています。また、薬剤アレルギーも常に報告があります。アナフィラキシーの原因調査からみえてきた最新の動向とともに、新たに増えてきたアレルゲンについてお話します。

「家屋内に潜むダニの生態とその対策について」

(申込番号:W15000b)

講師 中田 訓浩 氏 日革研究所 研究開発室/博士(工学)

気密性の高い住宅の増加やエアコンや加湿器などの普及により、いつでも人が快適に過ごせるようになりました。ただ、それは家屋内に潜むダニにとっても快適な環境です。

屋内ダニによる主な健康被害は「チリダニ」によるアレルギー性疾患、「ツメダニ」によるダニ刺されです。これら健康被害のリスクを少しでも減らすためにも、まずは、ダニの生態や弱点を知ることが大切です。そして、ご家庭でできるダニ対策の目的やその効果を知り、ご自身のライフスタイルに合った継続できるダニ対策を見つけてください。

「食物アレルギー対応を 法的・行政的視点で考えることの重要性」

(申込番号:W15000d)

講師 坂本 龍雄 氏 中京大学スポーツ科学部 教授
アレルギー支援ネットワーク 理事長

アレルギー疾患対策基本法があることで、アレルギー対策の目的を明文し、国民の理解と協力とともに、行政のサポートが得られやすくなると考えられます（日本アレルギー学会ホームページ）。この法律を活用しない手はありません。食物アレルギーは医療面とともに社会面での対応も整備されてきました。しかし、除去食一辺倒の給食対応、保護者の役割が明確でない食物アレルギー対応指針の策定・運用など、多くの課題が残されています。利害が相反するにしろ、関係者の権利と義務の輪郭を法的・行政的視点から描き出すことは、食物アレルギー対応のさらなる向上を目指すうえで必要な作業だと考えます。